

...ボランティアがつくるニュースレター...

発行…トラスト通信ボランティア
問合せ…(一財)世田谷トラストまちづくり

〒155-0031
世田谷区北沢2-8-18 北沢タウンホール
Tel・03(6407)3311 Fax・03(6407)3319
<http://www.setagayatm.or.jp/>

トラストネットワーク



公園等管理協定団体・みどりの推進員
合同講習会に参加して

No. 79 2018年 4月

平成30年2月7日午後1時半から喜多見東地区会館で、標記の講習会が開催されました。テーマは「喜多見の農とみどりの歴史にふれる」。内容は、世田谷みどりのフィールドミュージアム「喜多見4・5丁目農の風景育成地区」を見学しながら喜多見の農とみどりの歴史について学ぶことです。



定時に、世田谷区みどり政策課定行氏の開会の辞、高橋みどり政策課長の挨拶、そしてみどり政策課浅見係長から「世田谷・みどりのフィールドミュージアム」の説明がありました。地域全体(フィールド)を博物館(ミュージアム)として捉え、学習体験の場とする考え方で、世田谷の自然や生きものについての知識が得られ、自然への関心が深められるよう、地図や案内板を整備する事業だそうです。

現在は、「喜多見4・5丁目農の風景育成地区」と「成城学園前駅周辺地区」の二地区が整備済みで、今年3月に二子玉川公園周辺地区の整備が完成したそうです。地図・案内板には、古墳、神社・仏閣、公園等が表示され、その概要も掲載されています。

説明が終わると、早速、出発。各古墳、神社仏閣、道路の説明を浅見係長が担当されました。最初は「喜多見5-21遊び場」次が「喜多見五丁目竹山市民緑地」。ここでは、(一財)世田谷トラストまちづくりの小林氏が、この市民緑地の管理運営について説明を担当。市民緑地は、(一財)世田谷トラストまちづくりが土地所有者と賃貸借契約を結んで借り上げ、その土地を区民に開放する制度です。



管理は、(一財)世田谷トラストまちづくりと16名のボランティアとで行っています。活動日は月2回で、毎回10~15名のボランティアのメンバーが集まります。一番大きな作業は竹の間伐で、年間300本以上を切ります。

79号の目次

合同講習会に参加して	1
せたがや散歩道	3
多肉植物の寄せ植え	6
経堂五丁目特別保護区春の一般公開	7
かわらばん	8

危険な作業を伴うので、毎年2回はミーティングを行って注意を喚起します。それから多くの区民の方々に参加してもらうための企画・立案等もあります。また、竹林は猛禽類の棲みかになっているようで、小鳥の羽や、ネズミの死骸などが落ちていることがあります。」とのことでした。

次は、知行院。登戸道を通って、須賀神社、第六天塚古墳、稲荷塚古墳、慶元寺三重塔の見える風景を見学して、喜多見農業公園に。ここでは、ランドブレイン㈱の斎藤氏が説明を担当。公園全体を区画割しないで、農園として活用しています。具体的には、区からランドブレイン㈱が管理運営の委託を受け、更に、世田谷喜多見農とみどりNPO法人と再委託契約を結び、「NPO・教育団体・地域住民・JA・区」とで運営連絡会を開催し、栽培作物やイベント(種まき、収穫等)の開催等を決めています。また、年間を通しての野菜づくり講習会(平成29年度の参加者は15名)や喜多見農業公園ファンクラブを立ち上げイベント参加や農作業の応援も依頼しています(現在の会員は66名)。

ここで、浅見係長から、喜多見の農業の歴史についての話がありました。江戸時代は、喜多見の人達は農業を生業とし、コメ・麦等と薬物の生産が主でした。明治時代になって養蚕、大豆、薩摩芋、筍、柿(禅寺丸)等作物の種類も増えました。また畑の境界に茶の木を植えて、自家用の茶をつくったりしました。農作物を市場に出荷する時には、午後11時頃家を出て、翌朝に神田、京橋等の市場に野菜等を届けたのだそうです。

次は、慶元寺、氷川神社を見学し、「畑の間の土の道」筏道を通り、竹林と垣根を見学して次大夫堀公園へ。次大夫堀公園での説明は、砧公園事務所 長谷部所長です。

民家園には江戸時代後期に建てられた旧大蔵村の名主の主屋をはじめ、土蔵、長屋門などが移築され、江戸時代後期から明治時代初期の農村風景を再現しています。また、民家園では教室が開かれ、糸つむぎ、そば打ち、紙漉き、鍛冶、藍染め等の講習会を開催しています。鍛冶展示小屋では、ボランティアの方々が実際に農機具等を作っていました。鍛冶の主な道具は、喜多見で鍛冶屋を営んでいた広田家からの寄贈品だとか。



また、次大夫堀公園には1,400㎡の田んぼがあり、5月の田植えの際には園児、児童等約1,200人が集まり、秋には450kgほどのもち米が収穫されたそうです。これで、講習会は終わり、高橋課長の挨拶の後、散会となりました。参加者は、13名でした。

みどりの推進員について

みどりの推進員とは、「世田谷区みどり推進員要綱」第2条の規定に基づき区長から認定された団体です。認定要件は、みどりの育成花壇等の清掃その他維持活動、相談、教育、啓発活動等を行なう構成員2名以上の団体です。役割は、「みどりの保全・創出」に関する区の施策への協力で、任期は3年です。

せたがや 散歩道

てくたくぶっく～駒沢公園コース

④ 兎兎呂城(ととろじょう) 深沢 5-38

この石碑は都立園芸高校の正門横に建てられています。



この地は北条氏の家臣、南城右京亮重長が下総国の戦での手柄により下賜されたもので、近隣に土を掘り掻き上げ土塁として築城したものです。1590年(天正18年)北条氏の滅亡とともに姓を谷岡と改め帰農したと言われています。

府立園芸学校は1908年(明治41年)に開設され、同じ頃全国各地に農業学校が設立されています。現在は都立園芸高等学校と改称されています。



⑤⑥ 深沢神社 三島の洗い場 深沢5-11

兎兎呂城主谷岡重頼が伊豆国の三島神社の分霊を勧請したと言われています。もとは三島神社といい明治

42年には地域の村落に在った様々な神社を合祀し、地名により深沢神社と改称しました。



深沢神社の北側に150坪ほどの池があり、その中に三つの島があったことから三島と呼ばれていました。



池の中の湧水が水源で近くを流れる香川へ注いでいるのを利用して、農作物の洗い場が作られていました。池は昭和39年に埋められました。

⑪ 深沢不動 深沢 6-1

駒沢通りと駒沢公園通りの交点に在ります。明治の初めに深沢村では成田山新勝寺の不動明



深沢不動本堂正面

王を信仰する機運が高まりました。村内に成田山の本尊を模した不動明王を祀り成田山へ行かずにそこへ参詣したいとの声が高まり、村人が協力により医王寺の境内仏堂として深沢不動堂が建立されました。

現在の本堂は平成8年に建て直されています。

⑫ 医王寺 深沢 6-14

駒沢通りに面し、深沢不動に隣接しています。本堂は昭和38年に建て直

されたものです。山門横に「⑦深沢小学校発祥の地」の碑が建っています。深沢4-35にも同様の碑がありますが医王寺の方が初代の碑となります。

全国各地に同名の寺院が多くあり、また様々な宗派の医王寺があります。世田谷の寺院は真言宗智山派です。

⑭ 修道院*の湧き水 深沢8-13



この庭園は自然環境の保護のため区の条例で特別保護区に指定されています。この池は湧水で満たされています。



*正式名称は「無原罪聖母宣教女会」

⑮ 長谷川町子美術館 桜新町1-30

漫画家長谷川町子が生前の昭和60年に開設した美術館です。館内には作品原画、美術コレクション、陶人形などが展示されています。隣の公園にはサザエさん一家の彫像が設置されています。



⑯ 信託住宅発祥地 桜新町1-30

大正時代の初め信託会社による分譲住宅が売り出され、その地域の主要道路には街のシンボルとして桜が植えられました。この街路樹により桜新町の地名が誕生しました。



⑱伊富稻荷神社 桜新町2-20

久富稻荷神社の本社にあたります。



本神社入り口の石碑



⑲神習教本祠 新町3-21

教派神道神習教の総本山です。明治時代初めに芳村正秉により創設され、この地に本祠を移されました。



⑳久富稻荷神社 新町2-17

旧大山道に面した鳥居から250mの長い参道を経て二の鳥居があり本殿にたどり着きます。広い境内には古木が多く世田谷区の保存樹木も数本あります。祭神は、うかのみたまのみこと倉稻魂命です。



㉑給水塔 弦巻2-41

大きな丸い建物が2棟並んでいます。これらの建物は大正13年に旧渋谷町に水道を引くために建てられた給水塔です。現在は災害時の緊急給水拠点としての機能を有しています。



㉒品川用水路跡 駒沢3-22

江戸時代初期に品川領の水田灌漑用に玉川上水から分水して水路を設けました。石碑のある場所はその水路が流れていた場所です。

石碑は大東京信用組合の構内に在ります。



㉓善養院 新町2-4

曹洞宗の寺院で元和2年(1616)に大場豊前守義隆の開基によるものです。現在の本堂は大正14年から昭和2年にかけて建てられたものです。本尊は木像の釈迦如来像です。

㉔駒沢ゴルフ場跡 駒沢1-22

1914年に現在の駒沢オリンピック公園の辺りに政財界有志が土地を借りて6ホールのコースとして東京ゴルフ倶楽部を設立、開場しました。その後18ホールへ拡張しましたが、同倶楽部は移転したため目蒲電鉄(現東急)が駒沢ゴルフ倶楽部として運営していました*。



*参照資料：世田谷区ホームページ→くらしのガイド→世田谷の見どころ→玉川地域→駒沢のゴルフ場

フラワーランド園芸講習会
多肉植物の寄せ植え

3月5日(月)午後1時半から「多肉植物の寄せ植え」講習会が開催されました。まず、最初に(一財)世田谷トラストまちづくりの担当者の挨拶の後、フラワーランド友の会会員の講師により、講習会開始。最初に「多肉植物」の説明。「多肉植物とは、乾燥した厳しい環境の中で(あるいは塩分の多い土地でも)生き延びるために水分や栄養分を葉や茎、根に蓄え、乾燥に耐える機能を持つようになった植物の総称で、サボテンなどもその仲間です。」とのことでした。また、成育期間による分類(成育型)があり、「春秋型」「夏型」「冬型」に区別され、今回の寄せ植えの苗は「春秋型」の多肉植物だそうです。

次に、各自の机には、ポットに入ったエケベリア属の根付き苗10株、穴の開いている鉢、土は鉢底石と排水性の良い土、鉢底ネット、割箸等が並んでいました。道具等の確認後、いよいよ植込み開始。



まず、鉢底の穴にネットをあてがい、鉢底石を少々入れ、鉢の半分くらいまで培養土を入れました。次が問題です、「今回は10株の苗のうち、7株を鉢に植え3株は自宅にお持ち帰りです。まず、鉢正面を決め、次に、植込みの際のデザインを考えてください。奥の方に背の高い物を、手前には背の低い物

を植えると見栄えが良いです。」とのこと。ところが、苗の背の高さはほとんど同じ、苗を並べるのに四苦八苦。友の会会員の助けを借り、やっと並べ終えたら、土入れ。エケベリア属の株は葉が横に出ているので、鉢一杯になってしまいました。不用意に苗を掴んで葉を折ったり、「根と根の間に土が入っていない隙間があるので、割箸について土を入れてください。」との注意で、鉢の手前の方を割箸でついたところ、土が乾燥して滑りやすかったのか、奥の苗が浮き上がってあわてたりしましたが、皆さん楽しそうでした。



作業が一段落した後、水遣り・管理等の注意事項の説明を受け、自分が移植した多肉植物の鉢と、苗、自宅で植え込む際の底石、培養土等をお土産に、2時半過ぎに講習会は終了しました。当日は、雨にもかかわらず、18名の方が参加し、熱心に受講されました。



経堂五丁目特別保護区

春の一般公開

今年は急速に桜の開花が進み、東京では3月24、25日の週末には満開の時期を迎えました。春の一般公開二日目の25日、こちらでは、カワヅザクラがほとんど散り、ジンダイザクラやエドヒガンザクラ、コブシやトウモクレンが見頃でした。また、めずらしいムサシアブミの花もちょうど見る事ができました。



この特別保護区で自然解説活動をされているボランティアの方に少しお話を伺いました。

この保護区には湧水を源とする池があり、そこにはコイ、キンギョ、メダカその他モツゴ、モロコ、ザリガニ、カメ、カエルなどが生息しています。自然に生息している生き物もいれば、持ち込まれた生き



物もいるそうです。生き物調査によれば、チョウは20種類くらい、他にもセミ、トンボなど色々な昆虫や、土壌生物なども観察されているそうです。

鳥ではシジュウカラが巣を作る他、

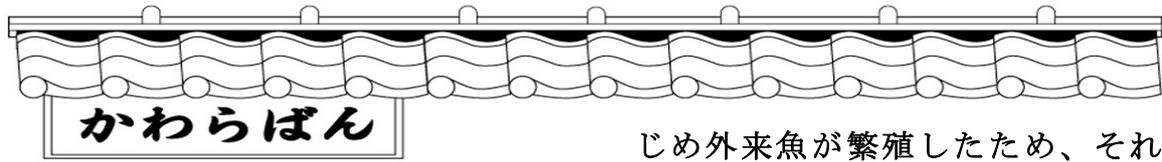
コゲラやカモ、サギ、ワシタカの仲間のツミ（鳩くらいの大きさ）も来るそうです。

一般公開時は、申し込み不要で自由に入ることができますが、入り口には係の方がいて、このお庭の見どころなどを教えてくれます。見どころや植物の見分け方を書いたイラスト入りのパンフレットを見ながら、また、ボランティアのお話を聞いて散策すれば、身近な自然への造詣が深まるので、是非お勧めいたします。



なお、ボランティアの方が作っている「経堂五丁目特別保護区 News (世田谷トラストまちづくりのホームページに掲載)」は写真も豊富で、普段一般の方が入ることが出来ない時期の花の写真、肉眼では見えにくい鳥や昆虫の写真なども見る事ができる他、「ええっ!?!」「すごい…」とってしまう特ダネも。こちら是非ご覧下さい。次の一般公開は秋に予定されています。





かわらばん

「かいぼり」で生態系の回復めざす

近頃、「かいぼり」という言葉をよく耳にするようになりました。『広辞苑』によると、「かいぼり(掻掘)」は「池・沼の水を汲み出して中の魚を捕ること」と記されていますが、最近では、水質改善や生態系の回復のために行われることが多いようです。

2017年の春に開園して100年を迎えた都立井の頭恩賜公園(武蔵野市、三鷹市)の井の頭池は昨年末から「かいぼり」を行っています。水質の改善と在来種の保護が目的です。

井の頭池では、2014年1月～3月と15年11月～16年3月に「かいぼり」が行われており、今回は3回目になります。最初の14年の「かいぼり」では、魚などの捕獲数の約8割が外来種だったが、回を重ねるごとに在来種の割合が大幅に増えているそうです。例えば、かつて2万匹以上いたといわれるブルーギルは、今回の捕獲数が267匹と大幅に減少しており、捕獲数が112匹のアメリカザリガニ、3匹だったミシシippアカミミガメも同じく減少しています。これに対して、モツゴ、ギンブナ、スジエビなどは増加傾向を示しているそうです。

これとは別に、調布市の深大寺にある弁天池でも、今年の2月17日に初の「かいぼり」が行われました。山門の前にあるこの池は、かつては湧き水が流れ込む水のきれいな池で、スイレンが咲き、夏には子供たちが泳いでいたそうです。ところが、周辺の開発が進むと、生活排水などが流れ込んでヘドロがたまりました。さらに、コイをは

じめ外来魚が繁殖したため、それが水の濁りと生態系を乱す原因になっているそうです。そこで、水質改善と生態系の回復をめざして「かいぼり」が行われました。

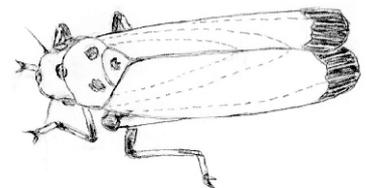
ボランティアを含めた100人以上の参加者が、まず池底のヘドロを除去し、生息していたコイ、メダカ、タモロコ、フナ、モツゴ、クロダハゼ、スジエビ、モクズガニ、ヤゴなどをていねいに捕獲して、専門家がしっかり観察し、池に戻すものと、他の池に移すものを分けたそうです。地元の関係者たちは「緑の水草が見え、本来の魚が泳ぐ、かつての池の姿を復活させたい」と、抱負を語っているそうです。

こうした「かいぼり」があちこちで行われれば、水がきれいになり、生態系が回復して、かつての美しい姿を取り戻せるようになるでしょう。

いきものさんぽ

ツマグロオオヨコバイ

体長 約1cm
バナナ虫とも
言われ横に飛び
草の汁を吸って
います。



彩草会

編集後記

取材で立ち寄った深沢5丁目の三島公園内で「かいぼり」の現場に出会いました。テニスコート半面位の小さな池です。

ポンプ車で水を汲み上げ、底のヘドロがよく見えるようになっていました。

水質改善などの身近な環境改善を感じ取る事ができ、このような活動の広がりを考えると、晴々とした気持ちになります。

79号作成に関わったメンバー

大泉定雄 片寄正史 北島明子 須永澄子
高梨麻実 野武一郎 宮下正雄